



勇壮 火祭り

7月6日、十市の石土神社で火祭りが行われました。天候が心配されましたが不動明王様のご利益でしょうか、朝から晴れ間が広がりました。

境内中央の護摩壇に火がつけられ、燃えさかる炎の中へ、行者の方たちが約八千本の願い事を書いた護摩札を投げ入れました。

火が燃えつきたあとは火渡りの儀式、残り火がのぞく上をまず素足の修験者が渡ったあと、信者の方たちが五穀豊じょう、無病息災、家内安全などを祈りながら、次々と渡っていきました。

よこそ

6月26日、香南中、大藤小に世界各国から中学校、高校の教員を迎えて教育事情視察を行いました。

この事業は国際交流基金が主催で、他国の教育関係者に日本の教育、文化、社会事情を見てもらい、国際的な文化の交流を図ることが目的。

各国の教員の方々は校内の施設や授業の様子を見学、熱心に説明をきいたり、写真を撮ったりしていました。生徒たちともすぐに打ち解け、言葉が通じないながらも楽しそうに交流を深めていました。



話し合いのテーブルに

空港再拡張に向けて、話し合いのテーブルに、6月13日、運輸省、県と地元地権者などで組織する高知空港再拡張対策協議会（末政博章会長）が南国市長を仲立ちに会談。

協議会のメンバーは「地元不在で話が進行しているため行政不信が拭い切れない。しかし、私たちが取り巻く環境を考えた場合、反対だけでは事態は解



決しないとも考える。集落の和を保つていくため、会を組織した」と説明。

協議会は地元で話し合った結果として、交渉は窓口を協議会に一本化すること、宮農対策の専門班を設けることの二点について、国・県との協定書に調印しました。



河川愛護月間の七月十二日、物部川の清掃作業が行われました。これは建設省が主催して毎年実施しているもので、地元住民や少年サッカーチームら約二百三十人が参加。午前八時に集合した参加者はゴミ袋を片手に、約一時間にわたって、空き缶やビン、紙などを回収し、二トントラック二台分のごみが集められました。

物部川一斉清掃



丘のうえの時計台

南国市商工会青年部（漢洲文生部長）の手によって吾岡山に時計台が……。七月八日、関係者が集まり、高さ四・五メートルの時計台の除幕式が行われました。吾岡山をもっと公園として利用してほしいとの願いから建てられたもので、午前九時、正午、午後五時には魔除のメロディが流れ、ゲートボールやサッカーを楽しむ市民に時を知らせます。

ホタルを守ろう

ホタルをみんなの手で増やそうということで、7月2日、ホタルの幼虫の主食となるカワニナ（巻貝の一種）を採取しました。南国市みんながホタルを守ろう会（笠原清一会長）が中心となって行ったもので、今年で6年目。

参加したみなさんは冗談を言いあいながら、楽しそうに貝を集めていました。

ホタルの保護が条例で決定され、同会などの活動の結果、最近ではホタルの数もまた増えているそうです。



誕生会に踊りを披露
六月十八日に稲生地区の「西尾多都十新舞踊の会」衣笠教室のメンバーら八人が白昼を訪問しました。この会は毎年敬老会の催しに参加するなど、積極的に訪問活動をしています。今回は入居者の方の誕生会の催し物の一つとして踊りを披露するために訪問。艶やかな衣装で「人生の並木道」や「三味線仁義」など七曲を披露しました。約五名のおおむねりらはメンバーたちの熱演に大喜びでした。



ハスを見に来て

7月5日、雨の降るなか、十市地区公民館（北村謙一会長）と婦人会（土居与千代会長）のメンバー約四十人ほどが、石土池の周辺を清掃。

間もなく満開となるハスや冬場のバードウォッチングなど、石土池を訪れる人は年々増加、一方、心ない人たちによる不法投棄や投げ捨てが横行。

「石土池は十市のシンボル、ハスをもっと美しくみてもらおう」と心をいためた住民たちが思いから行ったもの。朝早くから、皆さんご苦労様でした

